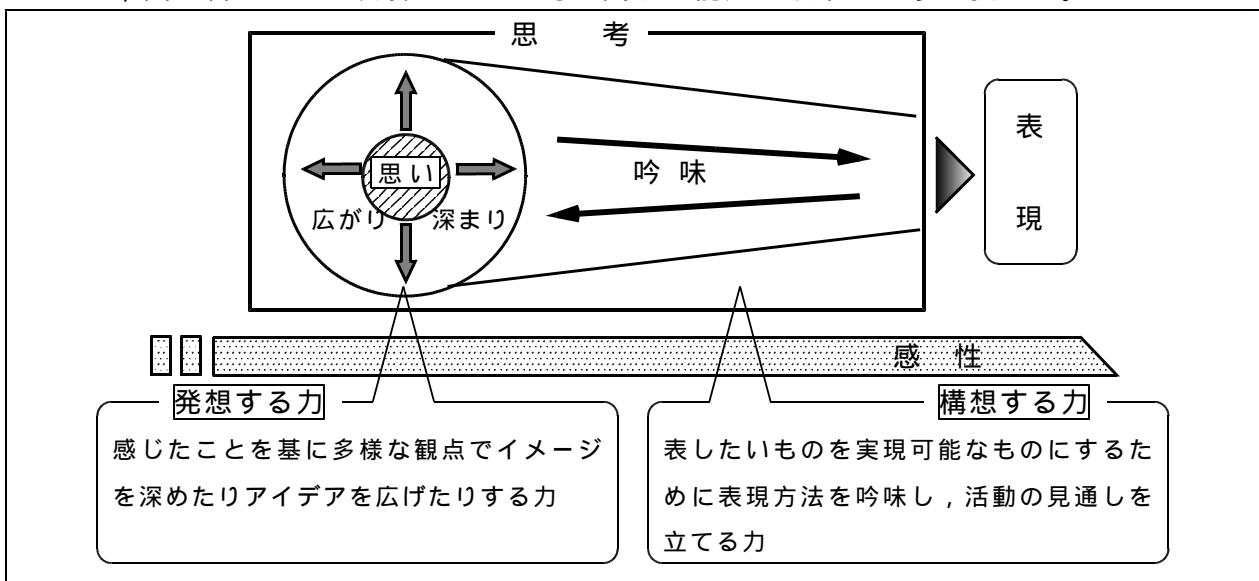


図 画 工 作 科

1 育成したい「思考力」

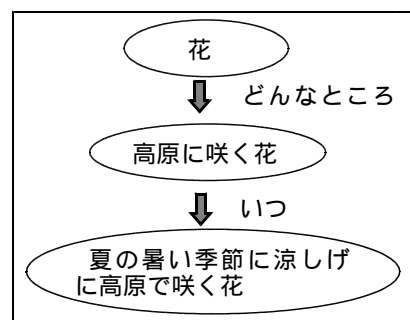
- a 感じたことを基に多様な観点でイメージを深めたりアイデアを広げたりする力
(発想する力)
- b 表したいものを実現可能なものにするために表現方法を吟味し、活動の見通しを立てる力
(構想する力)

自分の手でものを生み出していくことが特徴である図工科では、「何をつくっていこうか」という発想と「どのようにつくっていこうか」という構想が思考の中心となると捉えている。そこで、図工科において発揮される思考に関する能力を以下のように捉えた。



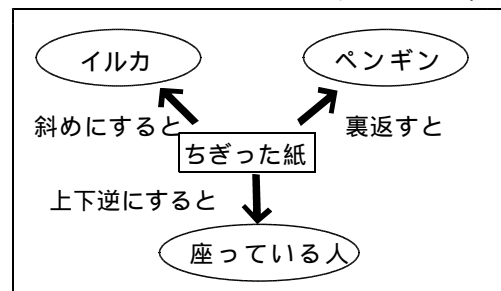
- a 感じたことを基に多様な観点でイメージを深めたりアイデアを広げたりする力(発想する力)
イメージを具体的に思い描く力

例えば、花の絵を描くとする。はじめは、概念的で記号のような花を思い浮かべる場合が多い。しかし、その花がいつ、どんなところに、どのように咲く花なのかといった時間的、空間的な観点をもつことで花や周りの様子がより具体的になり、誰もが思い描く不特定の花から、自分が表したい特定の花になる。このようにイメージを具体的に思い描く力のことである。



色や形にかかわるアイデアを広げる力

例えば、無造作に紙をちぎる。すると、その紙の形が動物に見えることがある。さらに、紙を斜めに置いたり裏返したりすると全く別のものに見える。このように「向きを変えたら」「裏返したら」などの観点をもってアイデアを広げていく力のことである。上記の花の例で言うと、「花びらの色を変えてみたら」「大きくしてみたら」「向きを変えてみたら」など描く対象を色や形にかかわる観点から眺め、アイデアを広げていく思考のことである。



b 表したいものを実現可能なものにするために表現方法を吟味し，活動の見通しを立てる力
(構想する力)

広がった発想から表現したいものを決め，その実現のために表現方法や材料を考えたり活動の計画を立てたりしながら，実現可能な形に変えていく力である。すなわち，表したいことと材料や場所などの特徴，構成の美しさや視覚的な効果などを照らし合わせ，表現方法を吟味し，取捨選択していく思考のことである。また，この思考は，表現したものが表したい感じに合っているか吟味する場合にも働く。

また，これら二つの力を支えるのは，身の回りのもののよさや美しさを感じる感性だと考えている。「きれいだな」「面白い形だな」といった情操にかかわる部分が感性であるが，上記の「思考力」は，この感性に常に支えられながら高まっていくものであると考える。

2 「思考力」を育成する単元編成

(1) 表現意欲を喚起する自由と制限を考慮した教材開発

子どもは、「何をつくっても，どんな材料を使ってもいいよ。」と言われると困惑してしまう。自由は，一見，子どもの表現意欲を喚起し，創造性豊かな活動を生むと思われがちだが，「表すもの」「表現形態」「使う材料」など考える要素が多すぎ，発想の手がかりをなかなかつかむことができない。そのため，何をどうやればよいのか分からず，結局，表現する意欲を失うのである。かといって，制限をかけすぎると多様で広がりのある発想は生まれにくい。つまり，どこを自由にし，どこに制限をかけるのかということと題材のねらいと関連させながら考えていく必要がある。そこで，「何を」というテーマ性，「どんな材料でどのように」という方法の二つの視点から自由と制限を考えていく。

低学年の「ふわふわキュ！」という題材を例に挙げる。この題材は，スポンジを用い，その材質や形から発想し，思い付いたものをつくるというものである。ここでのねらいは，スポンジを様々なものに見立てるといふ発想の広がりやスポンジの特性である柔らかさや弾力性に気付き，それを生かした表現をすることである。



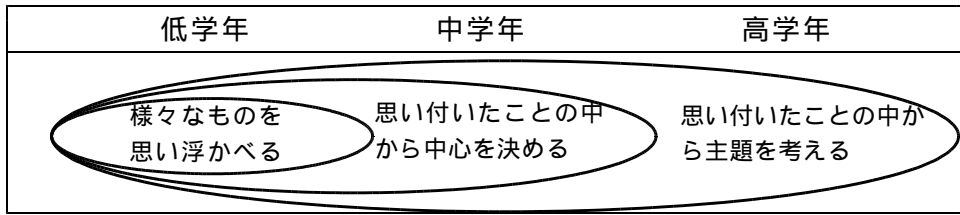
そこで，つくるものについては，子どもたちの発想を大事にするため，教師側から制限せず，子どもが思い付いたものを自由につくれるようにする。しかし，材料のスポンジについては教師が決定する。例えば，スポンジの色を白に統一し，厚さは1 cm，2 cm，3 cmのものを用意するのである。色に制限を加えることで，子どもは，色に惑わされることなく，スポンジの柔らかさや形などに着目して発想することができる。また，厚さを上記のように絞ることに理由がある。これ以上薄ければ，弾力性や柔らかさがあまり感じられず，本題材のねらいは達成できない。逆に，これ以上厚ければ，子どもは自分の力で曲げたり切ったりする加工がしにくくなり，思いをうまく表現に結び付けることができず，意欲が低下する。

このように自由と制限を考慮することで，題材のねらいを明確にするとともに，子どもの表現意欲を喚起することができるのである。

(2) 発想と構想の力が十分に発揮されるよう発達段階を考慮した題材の位置付け

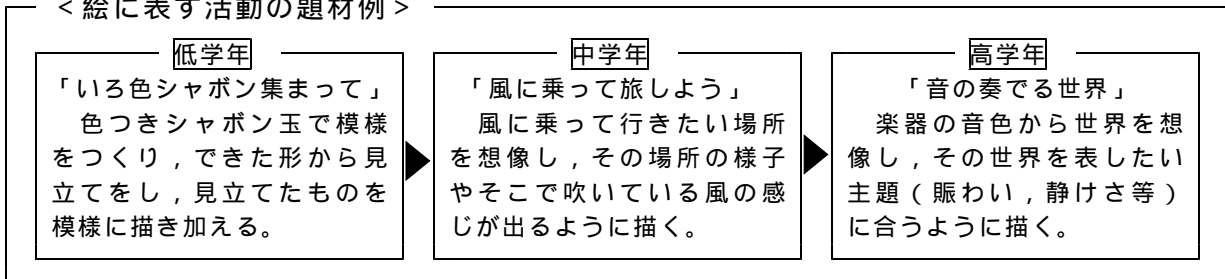
低学年は，感じたことや思い付いたことを素直に出せることが多い。そして，高学年になるにつれ，その傾向とは逆に，思い付いたことが主題に合っているか，実現可能ななど，吟味する思考が働くようになる。そこで，このような発達段階を考慮し，発想と構想の力が十分に発揮

されるよう各学年で重点を置く題材を以下のように位置付けたい。



低学年においては、特に発想の広がりをおおいにした題材を用い、様々な見方でものを見ることができるようになしたい。そのために、ものの形や材質を見て様々なものに見立てる活動を重点的に行う。中学年では、冒険や未来の世界など空想することを好む時期であることを考慮し、あるテーマを基にそこに広がる世界を想像する題材を重点的に行う。そして、そこから中心にしたいことを決定していく活動を取り入れていく。高学年では発想したことを基に主題を考え、それを人に伝えるためにどのように表現していけばよいか吟味しながら構想する題材を重点的に位置付けたい。

< 絵に表す活動の題材例 >

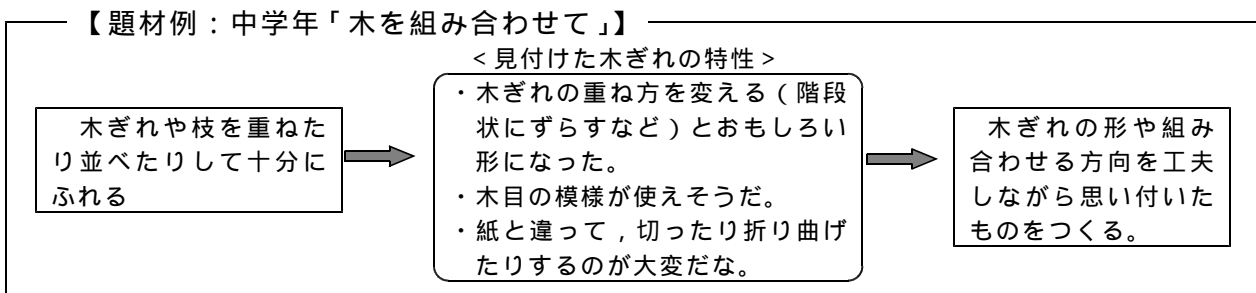


(3) 材料や用具の特性を見付け出し、今後の表現に生きる体験の場の設定

子どもにとって体験の少ない材料や用具を用いて表現する場合、どのように表現していけばいいの見通しがもてなかったり、材料や用具の特性を十分生かし切れず稚拙な表現で終わってしまったりする場合がある。



そこで、特性を体感できるよう材料や用具に十分ふれる場を保障する。その際、体験したままで終わることなく、それぞれが感じたことや発見した材料・用具の特性を話し合う場を設け、見付けた特性を全員が共有できるようにしておく。こうすることで、一人一人が感じた特性を意識付けることができ、今後、それを生かして表現していく際にも子どもは、体験したことを想起し、表したい感じと結び付けながら表現を工夫することができる。



この体験の場は、上記のように一題材の中で行ったり、低学年での絵の具遊びを生かし中学年で混色や描き方の工夫を学習するというように学年を見通して行ったりするなど計画的に設定していく。

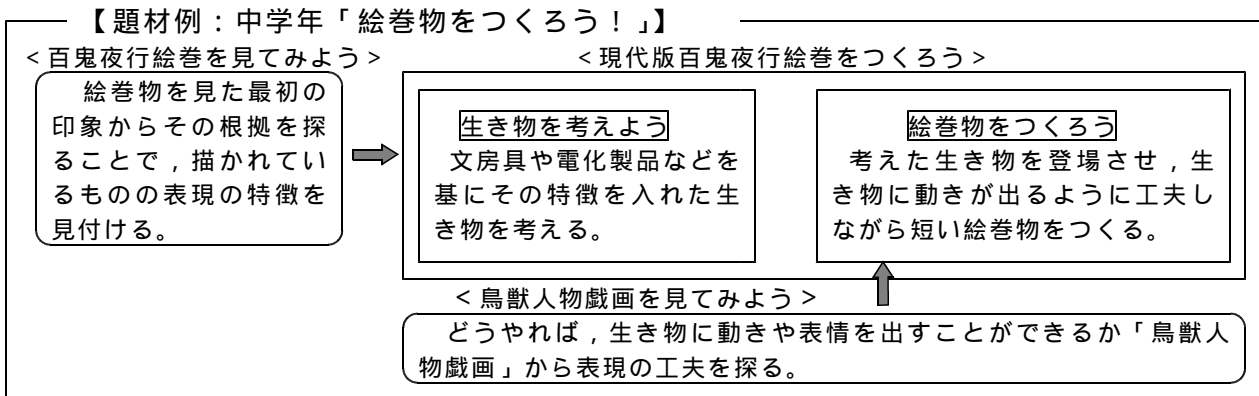
(4) 鑑賞したことを表現に生かしたり，表現したものを吟味したりする場の充実

何をどのように表現しようかと考える際には，その手がかりが必要である。その一つに参考になる作品からヒントを得るといった方法がある。そこで，美術作品や友達の作品，身の回りのものなど自分以外の作品を見る機会を組織し，そこで得たことを生かしていけるようにする。

自分たちが表現したものを互いに鑑賞する場合は，全学年を通して設ける。その際，製作し終わってからのみではなく，製作途中においても友達の作品にふれることができるようにする。自分の表したい感じを伝え，その表現についてアドバイスをもらったり友達の表現のよさを見付けたりする場を設けることで，自分の表現が表したい感じに合っているかどうか吟味することができ，新たな表現の工夫につながっていくものとする。



上記に述べた友達の作品以外に身近なものや美術作品なども鑑賞するが，その際，低学年では，表現と鑑賞が一体化した題材を中心にし，高学年になるにつれて鑑賞として独立した題材も扱うようにする。こうすることで，一つの題材の中で鑑賞したことをすぐに表現と結び付けるだけでなく，題材を超えて生かしていけるようにするのである。



なお，作品などを鑑賞することは，表現するという目的がある場合にのみ有効なのではない。普段から身の回りのものや作品にふれる機会を多く取ることで，よさや美しさを敏感に感じ取れる感性を耕しておくことができるのである。

(5) 子どもの思いに即した個に応じた指導の充実

何かをつくったりする際には，色，形，材質など様々な要素が絡み合ってくる。教師は，これらの要素を一つの題材で全てねらうのではなく，ある部分に焦点を当てて指導していくが，次のようなことが見られることがある。例えば，「水彩絵の具の混色による色の広がり」をねらいとし，活動を展開した場合，混色だけでなく，水加減や筆遣いに着目して表現していこうとする子どもが見られることがある。これは，表現していく中で混色以外の水彩絵の具の特性が目に入ってきたからである。

そこで，このような場合を鑑み，題材に応じて他のねらいも複線的に用意しておき，該当する子どもには，そのねらいも加えて指導していくことで，子どもの思いを十分に実現するとともに，よりよい表現へとつなげていく。

しかし，題材本来のねらいを達成せず，別の要素に着目している子どもに対しては，その着目している部分を認めつつ，ねらいが達成できるように促していく必要があるだろう。